

<熊本支部例会事前抄録>

日時：2021年1月26日(火)19:30～

会場：ZOOM ミーティング

- 一般講演抄録 2 -

Dental Implant Placement with Simultaneous Anterior Maxillary Reconstruction with Carbonated Apatite: A Case report with Using Guide System

八田 知之 はった歯科小児歯科クリニック 熊本県熊本市西区上熊本2丁目18-1

■抄録

補綴主導型インプラント治療では、天然歯と調和のとれた補綴装置をインプラントに装着するため、3次元的に正しい位置にインプラントを埋入する必要がある。

しかし、日常臨床において多くの症例では、埋入部位に垂直的・水平的に骨量の不足が認められ、正しい位置に埋入することが困難であり、骨造成等の手技が必要となる。

また骨量が十分であっても、埋入位置が正確でなければ補綴形態での修正を行う必要がある。

今回、水平的・垂直的に骨量が不足している症例に対し、骨造成を行い、埋入に際しガイドを用いた症例を提示する。

症例概要

患者は43歳女性。前歯部の動揺を主訴に2020年2月に当院受診。歯根破折の診断のもと抜歯処置を施行したが、インプラント埋入予定部位に骨量の不足を認めた。2020年5月に埋入予定部位に対し、チタンメッシュ及び吸収性メンブレンを併用し、炭酸アパタイトを用いGBRを施行した。同年11月チタンメッシュを除去、十分な骨造成ができていることを確認した。今後、診断用ワックスアップと、GBR後のワックスアップより再度コンピューター上でインプラント埋入シミュレーションを行い埋入用ステントを製作、インプラント埋入処置を行っていく予定である。

審美的要求度の高い前歯部の治療に際し、治療計画の立案、診断用ワックスアップの製作を行った事により、患者及び術者に共通のゴールが明確になったと感じた。しかし、インプラント埋入前にGBR等の処置が必要であったため、治療期間が長くなってしまっている。

骨欠損に対し、チタンメッシュと吸収性メンブレン及び炭酸アパタイトを用いてGBRを施行した。水平的・垂直的にも十分な骨量が確保されたと考える。再度CT撮像を行い、Computer guide systemを用いインプラント埋入、及び必要に応じ結合織移植を行い最終上部構造をセットしていく。

本演題に関し利益相反状態はありません。